

2020年度

新任教員の紹介



生物機能材料分野
助教
田中 聡一

2020年4月1日付で生物機能材料分野の助教に着任しました田中 聡一です。私の研究の原点は、京都大学大学院農学研究科において奥村 正悟先生のもとで取り組んだ、木材の機械加工のための非破壊評価にあります。博士号は、電磁波の一種であるミリ波を使った木材の物理的性質の評価に関するテーマで取得しました。その後は、金山 公三先生のもとで、産業技術総合研究所で2年間、生存圏研究所

(循環材料創成分野)で5年間ポスドクをしていました。その間に、私の興味は木材を評価することから加工することへと移り、主に木材の薬液含浸と流動成形加工(広義ではプレス成形加工)について、木材の物理的性質を生かしたプロセス開発の研究を行ってきました。

私が着任した生物機能材料分野は、木材物理学の流れを継承する歴史のある研究室であると認識しています。私はこれまで木材物理にユーザーもしくはマネージャーとして関わってきましたが、今後は木材ベースの新しい物性をもつ機能材料創りを模索する中で、木材物理クリエイターとなれるよう尽力したいと思っています。特に、バイオマス由来の先端材料開発は、素材の微細化からの再構成による構造化という

アプローチが多いですが、私は木材をできるだけ微細化せずに「大きな組織構造を残した材料創り」にこだわっていきたいと考えています。また、若輩ながら生存圏研究所の一員として少しでも研究所を盛り上げることができればと思っています。なにとぞ指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

